

立命館大学建設会

発行所
立命館大学建設会事務局
〒525-8577
滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学理工学部
都市システム系事務室内
令和3年8月

第35号

会長挨拶

建設会会長

中谷 恵剛

昭和四十八年卒



会員の皆様には益々ご清祥にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、私こと建設会便りに三たび登場することとなりました。昨年は予定しておりました恒例の京都駅前での総会・懇親会を開催で

きず書面にて会則の一部変更等を経て通常二年間のところ一年多く会長を務めさせていただいたところろです。初めの頃は大阪、京都、奈良、三重、岐阜、愛知、滋賀各支部から声をかけていただき、短時間ではありましたがご当地の会

員の皆様と楽しく有意義なひと時を過ごせたのが良い思い出で、今日の状況からすればなんと幸せなことであったのだろうかというのが正直な気持ちです。

この原稿は六月初旬に書いていますので、便りがお手元に届くころ、新型コロナウイルスの状況はどうなっているのか、東京2020五輪はどうなったのか、ワクチン接種はどうかなど、二、三ヶ月先のことがさっぱり予測できません。

今年の異常に早い梅雨入りに象徴されるように、気候変動が顕著になってきているように感じますし、世の中コロナ一辺倒の雰囲気

ですが、自然災害(コロナも含まれる?)への備えもおそろかにできません。厳しい情勢にありながらも暮らし・経済を支えるインフラ整備・メンテナンスは着実に進行する必要があります。とはいえ緊急事態で貴重な財源をどの分野にどれだけ投入するのか、緊急性を見極めつつ中長期的な視野を持ち続けることも大事だと考えております。

前述のとおり先が見通せない状況下にありますので(この夏に好転しているといいますが)、役員会にて様々な方策を模索しつつも残念ながら従来の形での総会・懇親会の開催を断念することに決

定いたしました。

従いまして同封しております資料のとおり会計報告と伴に役員人事も提案させていただきますのでご理解いただきますようお願い申し上げます。

働き方をはじめ何かにつけ否応なく従来のスタイルを変えていく必要がありますが、リモートなど有効活用しつつ『同窓』という繋がりを大切にしたいですね。

最後になりますが会員の皆様の益々のご活躍を祈念いたしますとともに、今後とも建設会の益々の発展のためご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

コロナ禍の大学とDX

都市システム学系 学系長

橋本 征二



二〇二一年度の学系長を拝命しております環境都市工学科の橋本です。建設会会員の皆さまにおかれましては、日頃より都市システム系の教学・同窓会活動に温かいご支援・ご協力を頂いておりますこと、心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症に係る最初の緊急事態宣言が発令されてから一年以上が経ちました。本学学生・教職員に関しましては、二〇二一年五月末時点で二〇〇名以上の陽性が報告されております。コロナ禍で犠

牲になられた方々に、深い哀悼の意を表しますとともに、皆さまにおかれましても引き続きご自愛下さいませようお願いします。

大学における教学に関しましては、この間、一教員として忸怩たる思いを続けてきました。現二回生は、大学生活の一年目をほとんどWEB講義で過ごしてきたことになり

ます。本年度四月に直面講義がスタートしましたが、それも一週間ほどWEB講義に戻ってしまいました。研究室における様々な活動も制

約を受けております。実験室や学生研究室においても利用人数の制限がかり、日常のたわいもない会話や意見の交換もしくくなっておりま

す。そうした普段の雑談が、相互の信頼関係を築き、新しいアイデアや研究に繋がるものを。小職の研究室では、他大学研究室との交流を毎年複数回行っておりますが、昨年度はこれもWEBでの開催となり、本年度も先が見通せない状況です。学生が大きく成長する学会発表の場もオンラインが続いています。こうしたイベントでは、その後の交流会も重要なわけですが(学生目線では違うかも知れませんが・笑)、そうしたこともできません。昨年度の卒業生・修了生は巣立っていくこととなり

ました。

一方、コロナ禍で大きく変化したのは、様々な場面での情報通信技術の活用です。大学の教学においても、これが大きく導入されてきました。一教員としても、WEB講義の方法

を試行錯誤しながら身につけてきた期間でした。世の中では、DX(デジタルトランスフォーメーション)が盛んに言われておりますが、この制約の中で何ができるのか、どうすれば対面での会話に近づけられるのか、何が今までと違って新しくできるのか、そんなことに思いを巡らすことは、学生にとってもその未来を考える重要な期間であったと思えます。土木・環境・建築の分野においても、情報通信技術のスキルはますます重要になってきております。そんな中、現在の教学では足りていないこうした分野の教学の必要性(一教員としての勉学の必要性)も日々感じております。

さて、学系の教員体制ですが、長年本学系の運営及びBKCのキャンパスづくりにご尽力頂いた建築都市デザイン学科の武田史朗教授、また、環境都市工学科の福原大祐初任助教、学系事務室の梅田真琴さんが昨年度末に退職されました。それぞ

れ新しい場所での活躍を祈念する次第です。一方、建築都市デザイン学科に北本英里子初任助教が着任されております。また、本学系がその設立にも関わった日越大学(Vietnam Japan University)に、二〇一九年四月よりJICA専門家として派遣されておりました佐藤圭輔准教授が、二年間の職務を終え帰任されました。ベトナムで培われたご経験や構築された人的ネットワークを、今後の教学、とりわけ教学の国際化に展開して頂けるものと期待しております。

なお、佐藤准教授の職務を引き継ぐ形で、二〇二一年四月より矢澤大志助教が同大学に派遣されております。

ワクチン接種が今後加速化し、本年度の後半には通常の大学生活、しかし、以前とは少し違った(デジタル化した)大学生活が始まっていることを願いつつ、建設会会員の皆さまにおかれましてはご自愛頂き、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

会員の声

半農半コン生活



滋賀建設会
石田良明
昭和五十五年卒

まずは、支部の紹介から。滋賀県支部（滋賀建設会）は、約二百四十名の会員で、その約半数が県市の現職の職員、四分の一が測量設計・建設業の方で、主な活動としては年一回の総会・懇親会を琵琶湖畔のホテルで開催しています。お陰様で二十代・三十代の若い方の出席が多く、いつも活気づいた総会・懇親会となっています。年に一回の総会・懇親会だけではねえとの会員の声から六年前から天ヶ瀬ダム（京都府・宇治川）の再開発など近隣での大規模工事を中心に知識を深めるため現場見学会を開催しております。また、会員の情報交換の場として「建設会だより」を年一回発行（最近ではHP上で）し、職場紹介や新規会員の紹介なども行っています。

現在の会の名称は「滋賀建設会」ですが、七年前に会員の約半数がBK卒となり、先輩方々の了解を得て、「滋賀衣笠会」から改称いたしました。なお、当会のホームページなどには、名残惜しい「衣笠」を残し、kinugasa@biwakone.jpとさせていただきます。一度、滋賀建設会へご挨拶をお願いします。

さて、「半農半コン生活」。私、五年前に滋賀県庁を定年退職し、日本道路交通情報センター（JARTIC・ラジオ放送など）で道路の交通情報などを伝えている団体）に三年勤めた

後、現在は建設コンサルタントに勤めております。

平日の昼間は国県市への営業活動など。休日および「早朝」は地元営農組合で農作業に勤しんでおります。営農組合と言っても組合員は僅か二十名。経営面積は約十三ヘクタールと小規模ながら、主要作物の米麦大豆のほかに、農業ハウス十棟で主に十二月から二月はイチゴ、三月から八月はJA直売所で早朝五時から並ばないと買えない甘くて美味しいと好評の「守山メロン」、九月から十一月は小松菜を栽培しています。建設業界と同様に高齢化（平均年齢六十七歳・六十五歳の私でも「若手」が進み、後継者不足にも悩んでいます）。

「早朝」と申しましたのは、ハウス栽培に従事している組合員は現職もおり、出勤前にハウス作業を行うというところで、早朝五時から七時までの二時間だけ毎日のように作業を行っています。冬期は寒さに震えながらヘッドライトを付けて小松菜の収穫作業を行っています。退職後は「こんなはずじゃなかった」と思いますが。

ともあれ、仕事ができる＝健康と
言うことで、コロナ禍の折、会員の



令和元年度 立命館大学滋賀建設会 総会・懇親会

皆様も健康に十二分に留意され活躍を祈念します。

人生の節目



岐阜県建設会
中島達二
昭和五十九年卒

六十歳という節目に当たり、この機会を頂いたことに深く感謝いたします。昭和五十九年三月に理工学部土木工学科を卒業し、地元の建設会社に入社して三十八年土木一筋にこの道を進んでまいりました。

新人時代は不安と戸惑いが多くありましたが、先輩上司の指導を受けながら、多くの現場をこなしてきました。現場監督として着工から完成まで私なりの充実感や達成感もあつたから今でもこの仕事に携わっているような気がします。この新人時代に、ある職人さんから「段取り悪いな」と叱られ、材料の手配と丁張が遅かったことで協力会社の方に随分迷惑をかけた。

この時、段取り八分「教えられませんでした。段取りとは、工事工程に基づき資材・労務・仮設機械などを計画立て、手配準備することです。八割以上行っておけば少々問題が発生しても乗り切れ目的に近いものとなる」との教訓です。段取りミスや失敗を糧に次に繋げる努力をすれば成長できます。現在はデジタル時代と言われていますが、自然相手に物を造る訳ですから、このような経験が非常に大切だと感じました。

新人時代から三十八年の多くは道路工事、特に舗装工事に従事してきました。この間舗装工事でも大きく様変わりしています。入社した当時はバブル時代であり多くの新設工事が行われていました。平成元年に開催の岐阜中部未来博に向けて数多くの工事が発注され、非常に多忙をきわめた時期でした。その後バブルの崩壊を受け、平成十年代は維持修繕が主体となり、路面切削工事や地盤改良工事などの特殊工事が多く発注されました。

その後は様々な環境問題が顕在化する中、環境に対する関心が高まり、社会資本として最も身近な存在である舗装においても、環境との係わりを明確に示すことが強く求められるようになりました。路面温度の上昇による都市空間の温度上昇や、二酸化炭素排出抑制・リサイクルの推進など多様な観点から環境に対する負荷を軽減するものが求められるようになるなど、舗装と環境の関わりは大きく変化しました。

近年では、建設業の賃金水準の向上や休日の拡大等による働き方改革とともに、生産性向上が求められ、建設ICTの導入が推進されています。舗装工事においても平成二十九年より取り組みが開始され、現在ではMCフィニッシュやMC切削機等の導入が行われています。今後情報化施工技術を活用した工事が増え、将来に向けて進められていくことでしょう。私は現在施工管理から材料を製造する立場に変わりましたが、常に初心を忘れず、「安全・安心」の工事が進められるよう努力していきたいと思っています。

新人時代から三十八年経ち六十歳という節目を迎えましたが、「人生百年」の時代と言われています。第二の人生に向けてチャレンジ。

京都から



京都建設会
関西浩二
昭和六十年卒

昭和六十年卒業の関西（せきにし）浩二です。京都建設会の副会長として、役員の方さんとともに会の活性化に取り組んでいます。

と新しいところですが、昨年から続く新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、役員会や総会、懇親会が開催出来ない状態が続いています。この原稿を書いている五月末時点で、京都府には緊急事態宣言が発令中であり、更に期間延長が避けられない状況です。このような事情ですので、京都建

設会の近況報告はまたの機会とし、私が勤務いたします「京都府」の最近の話題を紹介させていただきます。現在、私は京都府建設交通部技監として、主に土木、交通分野の業務を担当しています。因みに、京都府には土木技術職員が四百三十八名在籍しており、そのうち立命館出身者は九十四名となっています。

府が担う主な公共事業としては、京都縦貫自動車道や新名神高速道路等を軸とした道路ネットワーク整備、近畿圏における日本海側唯一の海のゲートウェイである京都舞鶴港の人流、物流機能の強化など、将来の発展につながる重要事業を展開しています。一方、近年、気候変動に伴い日本各地で大規模な災害が頻発する中、京都府でも台風、豪雨等による被害が相次ぎ、府内各地に大きな爪痕を残しました。防災・減災、国土強靱化のための五か年加速化対策予算も活用し、流域治水の観点も踏まえた総合的な治水・土砂災害対策を進めるとともにインフラ老朽化対策にも全力で取り組んでいます。

こうした事業を進める上で、建設企業や建設業で働く皆さんは大切なパートナーであり、地域に貢献する優良企業の育成及び建設業の働き方改革、建設現場の生産性向上は官民双方にとって大きなテーマです。京都府では、魅力ある建設業を実現するため、昨年度から「京都府建設業魅力向上プロジェクト」をスタートさせました。建設関係団体、行政及び大学・工業系高校の産官学からなるプラットフォームを構築し、建設業のイメージアップ事業やインターシッピング、セミナー、建設DXの促進等の取組を行っています。

今年度も引き続き、感染症対策を徹底しつつ、公共事業の着実な推進とともに、建設業の魅力向上に向けたソフト施策の充実を図って参りたいと考えています。

最後に、立命館大学建設会及び各支部の今後の益々のご発展をお祈り申し上げます。

さて、京都はこれから秋の観光シーズンを迎えます。京都市内の素晴らしい紅葉スポットや社寺仏閣等の他にも、府内には、宇治茶の名産

地として名高い山城地域に「お茶の京都」、美山かやぶきの里など日本の原風景を残す南丹・中丹地域に「森の京都」、日本唯一の舟屋群や日本三景・天橋立を有する丹後地域に「海の京都」、清らかな竹林と歴史的文化遺産が残る「竹の里・乙訓」からなる「もう一つの京都」がございます。コロナ禍が終息しましたならば、全国から多くの皆様をお越しをお待ちしています。

還暦を迎え少し振り返ってみました



建立会
野村嘉樹
昭和六十年卒

昭和六十年大学卒業後、東京に本社がある建設コンサルタントの大坂事務所勤務しました。高速道路の設計が主で、今となっては「これ使えるの？」というようなクオリティーの図面と計算書を作ることがこの業界のスタートでした。

四年後、地元である京都の建設コンサルタントに転職し、道路、下水道、上水道といった設計に携わりました。

当時携わった設計は、用地を確保して新設の道路を造ること、上下水道施設の普及率を上げることなど新しく建設することを目的とした設計でした。

しかし、やがて建設を含めた業界は、厳しい財源制約の下で、本当に必要な公共事業を進めることを求められました。従来の建設中心の事業の進め方から、限られた財源の下で最大限に生かす公共サービスが求められる時代です。建設コンサルタントの仕事も施設の点検、補修設計、また公共施設の運用や利活用に係る業務、さらに防災等のリスクマネジメントへと移り変わっていきま

した。新しい要求へと移り変わっていく中、発注者も設計者も新たな分野の研究を積む時代となり、大手コンサルが新しい分野へ変革していく中、

小規模の企業にいた私は何をどう進めていいのかわからず苦勞したものでした。

五十二歳の時に京都にあるコンクリートメーカーの建設部署に転職し、建設業の仕事に従事しました。建設業の仕事は建設コンサルタントでは意識の薄かった「安全」と「施工」を学び、完成したモノに対しての充実感を得ました。ここでは、提案書の作成や、工事前の設計チェックなど、建設コンサルタントで学び蓄積したことが役に立ちました。また、建設業における施工体制、専門業者の役割や技能など多くのことを学びました。

建立会との関わりはこの時期から始まりました。京都に住み京都の会社に勤める私を建立会の幹事会に招いていただいたのは「なぜ？」と感じるところもありましたが、現在は、建立会を通じてたくさん先輩後輩と出会い、立命館大学建設会の幅広い活動と同窓の団結力を実感し、招いていただいたことを感謝しております。

昨年八月、建立会はリモート参加を含み幹事会のみ総会を開きました。今年度の総会開催は五月末時点で、どのような形式にするのか未だ決定はしていません。中止、もしくは幹事だけの会食を伴わない総会、いずれにしても年に一度の「久しぶり！最近どうよ？」なんて会話ができないのは物足りない気分です。

昨年六十歳を迎え、これまで学んだことと経験を生かす場を再び建設コンサルタントに求め、現在は京都の建設コンサルタントに勤務しております。

コロナ禍の中、リモート会議やテレワークが普及し、これまでとは違ったスタイルができてつづきます。これも次の時代では当たり前となり働き方のツール、選択肢となつていくと思われれます。

人生百年とはいきませんが、これからも可能な限り生産性をもって社会とかかわり、この先に円熟の時代が訪れることを望むばかりです。今後ともよろしく願います。

関東建設会と共に三十六年



関東建設会
江坂尚樹
昭和六十一年卒

関東建設会の副会長を務めさせていただいております江坂です。このたびのような機会をいただきまして、たのびたいと思います。また、建設業における施工体制、専門業者の役割や技能など多くのことを学びました。

就職してすぐに会社の先輩に誘われて関東建設会の会合に参加して以来、三十五年微力ながら関東建設会に関わらせていただいております。始めは諸先輩方との飲み会に懸念していましたが話を聞いていくうちに、先輩方の仕事の相談などの協力関係、経験談の面白さに気づき、それから出来るだけ参加するようになりました。私も建設会で知り合った先輩に建設材料や施工方法の相談など様々な相談をさせていただき、最近では仕事もいただくようになりまし

た。建設会の活動としては幹事会や技術見学会、ゴルフ大会を行っております。幹事会は土木系だけでなく文系の先輩方、他の大学の方のゲスト参加も有り、幅広く人脈が広がっています。茨城県で開催したゴルフ大会ではアイランドグリーンに果敢に挑みほとんどの方が池ボチャとなり、悔しさのあまりリベンジした思い出があります。また、総会のイベントとしてマジックショーや応援団OBの方による演舞付き校歌斉唱が行われ、楽しくて年甲斐もなく盛り上つてしまします。昨年は幹事会のみ総会となりましたが、新型コロナウイルスが収束し自由な活動が出来るようになり、また、皆さまも是非、関東建設会のイベントにいらしてください。

さて、私という立命館大学で土木と出会い、設計や施工管理で三十年間勤しみ、現在は発注者支援業務を主事業とした都市整備技術研究所という小さな建設コンサルタント会社の代表として建設業界に身を置かせていただいております。私が就職した昭和六十一年代の建設

業界は昭和平成景気（バブル景気）と言われた好調期で、入社した会社で高規格幹線道路の設計に関わらせていただきました。二十代の私は早く一人前になりたくて昼夜無く無我夢中で汗を流していました。仕事は途切れることが無く、希望していた施工管理に初めて出たのは三十代になってからでした。記憶にあるのは国土交通省の立場で担当した京葉道路に沿って併走する一般国道十六号バイパスです。わずかに三キロ足らずの区間でしたが、京葉道路のすぐ横で道路改良や橋梁の耐震補強を行う工事を複数担当しました。狭い場所での掘削や地盤改良等の確認立会のため、毎日泥々になって現場を駆けずり回りました。その後、共同溝シールド工事の担当となり、約五キロの長距離掘削、ラッピング工法を併用したシールド工法の発進から到達までの工事を経験することが出来ました。施工管理時代は単身赴任が続き、心身共に厳しかったのですが、この経験があったことにより技術士に合格したことを思い出しま

す。故郷京都から関東の地へ来て三十六年、振り返ってみると先のことなど全く考えずに歩んできました。立命館大学建設会の良先輩諸兄、仕事を共にしてきた多くの方との出会いのおかげで、私の人生ができていると感じます。世の中が目まぐるしく変化する今日ですが、これから先も文句を言わずに与えられたことを全うして行きたいと思っております。

土木屋の誇り



広島県支部代表幹事
福馬啓人
昭和六十一年卒

近年、大規模災害の発生は、日本のみならず世界共通の課題となり、気候変動対策が進められてい

ます。気候変動対策はさておき、土木分野では平成二十六年に国土強靱化基本計画が閣議決定され、逐次施策が進められています。私の個人的な体験としては、平成七年の阪神淡路大震災（当時広島に住んでいました）、平成三十年の西日本豪雨で氾濫した川の中に残り残された経験があります。西日本豪雨の雨は特徴的で、少量の降雨が七十二時間継続し、結果的に七十二時間で五〇〇mmの降雨となりました。そう言う状況の下、近年、あまり聞かれなくなりましたが、「脱ダム宣言」に代表されるような暴論は、まだまだ消えていないと思

います。我々は、誇りを持って、国土の保全、機能向上に寄与している事を、若い人達にもつとつと伝えていきたいと思っております（もつとも、今の若者の多くは、そのような意識を強く持つておられるようですが、）。でも一般的には、工事をすると、多くの森林破壊が進むような誤解を語る人も居られますよね。林野庁のデータでは、日本の森林蓄積（森林を構成する樹木の幹の体積）は、昭和四十一年と平成二十九年を比較すると、年々増えて二・八倍になって

いるそうです。工事のために一時的に伐採された植物は、その現地特性に合った植物を植えているという事実は、我々には常識なのですが、。いずれにせよ、建設部門での人材不足も顕著になってきている今日、誇りを持って建設業の魅力を語っていき

危機的状況を乗り越えた先に



北海道支部
寿楽和也
平成元年卒

私は、一九八五年（昭和六十年）四月から一九八九年（平成元年）三月までの四年間を、右京区太秦のアパートと衣笠キャンパスの六号館で過ごしました。現在は札幌の株式会社ドローコンという建設コンサルタントにて主に橋梁の設計と調査に携わっています。卒業と同時に大手建設コンサルタントの大坂支社に入社

しましたが、諸事情により四年間で退職し、一九九三年（平成五年）に現在の会社にUターン転職しました。当時は北海道における立命館の知名度は低く（一九九六年の立命館慶祥高校開校後は抜群の知名度です）、身近に同窓の方が居ないため孤独感を感じつつも、多事にかまけて立命館を封印していました。

私が北海道の校友会や建設会の方々と交流し始めたのは、二〇一一年（平成二十三年）にゴルフにお誘

いただいたのが最初でした。今は建設会北海道支部の副支部長をやらせていただいておりますが、コロナ禍のため副支部長職は休眠中です。また校友会北海道支部の活動は、総会が本年六月に書類郵送のみの開催になる予定です。北海道のコロナ危機は、二〇二〇年二月の道独自の緊急事態宣言が発せられてから十五か月が経過しても終息の気配はありません。振り返ると北海道ではこの五年間は危機的な状況が次々と発生して来ました。二〇一六年（平成二十八年）八月の台風十号大雨災害（道路や橋梁の大量流出）、二〇一八年（平成三十年）九月の胆振東部地震（土砂災害とブラックアウト）、そして二〇二〇年二月以降のコロナ危機です。実は私はこの間にもう一つの危機に遭遇しました。コロナ危機直前の二〇一九年（令和元年）十月二十九日（火）未明に発生した本社ビルの火災です。

深夜の火災であったため幸い人的被害はありませんでしたが、燃焼時間が長かったため構造的なダメージが大きく本社屋は使用できなくなり、本部を設置して、業務を遂行しつつ、当面の職場確保に取り組みしました。業務はリモート作業で継続し、必要なPC等の各種備品の調達に奔走しながら、仮事務所を二日間探し、四日後には什器やPCを搬入し始め六日目から業務執行を再開することができました。多くの取引先からのご支援ご協力と、全社員が一丸となつて前を向いて取り組んだ賜物だと思っております。これぞ火事場の馬鹿力。今は「良い経験ができた」と思えるようになりました。その後は休む間もなくコロナ禍に突入。在宅勤務やオンライン会議などで業務効率、成果品質やサービスレベルの低下を懸念しましたが、火災復興の経験が活きたのか柔軟に対応できています。何が功を奏するかわからないものです。当社社屋は、再建工事のため、部門毎に異なるビルに分散して事業を継続しております。結果的に社屋分散はコロナ感染予防に対して都合が良かったという捉え方もあります。危機的な状況への対応は新しいものですが、乗り越えた先には新しく新鮮な未来があり、また乗り越えることが成長に繋がる効果があると思っております。今はコロナの危機を乗り越えた先に、真に安全安心な社会が来ることを期待しています。

着任の挨拶



環境都市工学科
特任助教
四井早紀

二〇二〇年四月より環境都市工学科に着任いたしました、四井早紀と申します。

防災、自然災害科学といったキーワードのもと、自然災害の被害低減に向け、人的被害分析を行い、人間被害モデルの構築に関する研究を行っています。どんな災害に遭遇し

でも、致命傷を受けず、被害を最小化し、迅速に回復できる力を持つ強靱な地域や国づくりが重要です。これに対して、世界で発生する自然災害による死者ゼロを目指して、人的被害低減に向けた実践的研究を推進することによって貢献したいと考えてきました。具体的には、二〇一一年東北地方太平洋沖地震で犠牲になった方々の避難経路別距離・標高推移の特性分析を行い、その特性を地形的要因として定量表現しました。この特性を、時系列理論を援用した空間モデルとしてモデル化し、そこから線形自由度の振動系のパラメータを導出して、地形の変化を端的に表現する説明変数を組み込むなどの工夫をした死者数推定モデルを構築しました。最近では、津波だけではなく土砂災害や洪水に関する人的被害分析も行っています。地域社会の災害に対する脆弱性の高まりや災害そのものの激甚化・広域化が懸念され、曝露人口も多様化する現状や急速な高齢化の進展等を通して、災害が発生した際の社会構造の脆弱性に対する対策が重要になると考えています。

私は、二〇一三年立命館大学工学部都市システム工学科を卒業後、二〇一五年京都大学大学院地球環境学舎修士課程、二〇一八年京都大学大学院地球環境学舎博士課程を修了しました。その後、外資系企業で自然災害リスクアナリストとして、保険会社のリスク評価に携わりました。専門分野では、様々な機関・組織との連携を図り、災害後にすぐに被災地へ赴き、現地調査をすることも研究者としての役割のひとつです。被災地の方々・災害対応に携わる方々へのヒアリングを実施し、時には国際機関と共に災害調査を実施してきました。ハワイ・イギリスへの留学、社会人としての仕事、現地調査等を通して、多様な国の人々と積極的に意見交換を行うことの必要性を学びました。

この度、母校である立命館大学に就任させて頂き、大変嬉しく思うとともに、全力を尽くし更なる防災分野研究に精進する所存です。工学的な考え方を取り入れた実践的かつ実証的な研究の推進に加え、心理学・

行動学など、学内外における様々な分野の研究者と連携を図り、研究を進展させたいと思います。研究者として、防災への知識や技術の共有を日本国内に留まらず、諸外国にも発信していきたいと考えています。私自身が Beyond Borders の精神を実践してきたように、未来の選択肢は多様であり、それぞれの道で出会う人、触れる価値観、得る知識の量で人は大きく成長することを学生に伝えていきます。この度、採用に関わられた先生方や恩師に感謝申し上げます。今後ともご指導とご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

着任の挨拶



建築都市デザイン
学科 助手
寶珍宏元

昨年の春より、建築都市デザイン学科に着任いたしました。寶珍宏元と申します。この度は、着任して一年の節目に、ご挨拶の場を頂き、誠にありがとうございます。

私は、建築設計や設計方法に関する研究を専門としています。学生の頃から空間認知や環境心理・環境行動と建築空間との関係に関する研究をしており、設計者はもちろんのこと、利用者の方々の空間に対する考えを表現しやすい方法や環境をセッティングできるように、建築模型を用いた調査などを行って参りました。また、実際の建築空間については、利用者の建築の使い方や居場所形成の仕方について考察・報告をして参りました。

私は二〇一四年に福井大学工学部建築建設工学科を卒業後、二〇一六年に同大学院工学研究科博士前期課程を修了いたしました。在学中は、松下聡教授のもとで大学キャンパス計画に関わる他、学校建築の使われ方に関する研究などに取り組みました。二〇一六年からは、株式会社鴻池組設計本部に入社し、一年間の工事監理業務を経験した後、建築設計・監理業務に携わりました。数々

のプロジェクトを通して建築設計企画段階から施工完了まで関わりましたが、一貫して「その建築に関わる人の暮らしを豊かにする」ことを目標として、空間デザインに取り組み参りました。二〇二〇年に、現職として立命館大学に着任いたしました。まだまだ続いておりますコロナ禍により、着任して数日で大学への入構制限措置が取られるという年度でございました。その様な中で、大学教職員としての経験が乏しい私に対して懇切丁寧にアドバイスをくださった先生方や職員の皆様には、感謝の念が絶えません。また、コロナ禍に負けず勉学に励む学生さんの姿を見て、大変勇気づけられました。

新しい職場ということに加え、研究と教育の双方でオンライン化が急速に進み、環境に順応することになった昨年度でありましたが、コロナ禍による環境の変化に負けず、これからの明るい社会のために努めて参ります。昨年度には、立命館大学キャンパス計画の一環として、びわこくさつキャンパス内の居場所について考えるワークショップ(計三回)を企画・運営いたしました。多くの学生さんにも参加頂き、コロナ禍を踏まえたこれからの大学キャンパスに求める居場所について、有意義な議論を行うことができました。今年度からは、草津市内の公共空間における居場所についての調査を行うなど、地域への貢献ができるよう、努めて参ります。

最後になりましたが、この度ご縁があり、立命館大学に就任させて頂き、大変嬉しく思うと同時に、採用に関わって頂いた先生方に心から感謝申し上げます。今後とも引き続き、立命館大学のご発展と、これからの社会へ羽ばたいていく学生の期待に応え、社会に貢献できるような研究・教育活動に努めて参りますので、どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。

立命館大学建設会第21回総会(書面開催)のお知らせ

昨年は新型コロナウイルスの感染拡大にともない、秋に予定されておりました定例の建設会総会・懇親会の開催を1年延期し、一部会則改正のみ別途書面による臨時総会(第20回建設会総会)でお認めいただきました。今年も引き続き新型コロナウイルス禍の収束が見通せない状況にありますため、昨年延期されました建設会総会を書面にて開催することとなりました。議事内容につきましては、別途案内されます【立命館大学建設会第21回総会議案書】をご参照下さい。

一日も早い事態の沈静化と感染された方々のご回復、そして皆様のご安全を心よりお祈り申し上げます。

事務局より

お知らせ

■会員登録データ

建設会会員名簿を隔年発行しておりますが、そのもとになるデータベースは、皆様からのお申し出に応じて適宜更新しております。このデータベースは、年会報の送付、総会などの各種案内、また、各支部からの連絡、会費請求の事務などに利用しております。

今回送付致しました年会報に同封されている「会員登録データ」をご確認いただき、修正や変更等がございましたら建設会事務局までご連絡下さい。

また、「2020年会員名簿[CD-R版](2020.12発行)」は、対象年度の会費を納入いただいている会員様に送付させていただきました。2020年度分の会費をまだお納めでない方は、同封の振込用紙にて2年分の会費(6,000円)を納入いただきますと、入金確認が出来次第、名簿をお送り致します。

▶名簿お取扱いについて

名簿は、会員の皆様の大切な個人情報に掲載しております。名簿をお持ちの会員様は、その保管およびお取扱いには十分ご注意くださいようお願い致します(転売厳禁)。

なお、ご不要になった名簿につきましては、お手数ですが焼却あるいはシュレッダー処分をしていただけますようお願い致します。

■建設会年会費ご納入のお願い

立命館大学建設会は皆様の年会費で運営されています。

2021年度会費のご納入をお願い致します(年会費:3,000円)。

銀行からのお振込も可能です(ゆうちょ銀行109(イチゼロキユウ)支店、当座0000884)。お振込の際、お手数ですがお名前の前に10桁の会員コードをご記入いただくか、お名前・会員コード・お振込日を下記アドレスまでご連絡下さい(振込手数料は申し訳ございませんが、ご負担願います)。

※なお、8月10日~16日まで、大学一斉休暇となります。何とぞご了承下さい。

建設会事務局

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学理工学部都市システム系事務室内(担当:山元)
TEL:077-561-4911 FAX:077-561-2667

https://ritsumeikensetsukai.net
E-mail: kenstkai@st.ritsume.ac.jp
会費払込郵便振替口座: 02 大阪 01080-1-884